

情報通信審議会 情報通信技術分科会
技術戦略委員会 重点領域ワーキンググループ（第3回）

議事概要

1. 日時

令和2年3月24日（火） 10時00分～11時19分

2. 場所

中央合同庁舎2号館9階 第3特別会議室

3. 議題

- （1）技術戦略委員会について
- （2）共創イノベーションWGの検討状況について
- （3）重点領域WG取りまとめ（案）について
- （4）その他

4. 出席者

- （1）構成員（主任等を除き五十音順、敬称略）

森川主任（東京大学）、伊藤構成員（慶応義塾大学）、
梅比良構成員（茨城大学大学院）、佐々木 良一（東京電機大学）、
下條構成員（大阪大学）、鶴岡構成員（東京大学）、
安井構成員（情報通信研究機構）

- （2）オブザーバー（五十音順、敬称略）

前田 裕二（日本電信電話株式会社）、田中 啓仁（KDDI株式会社）、
中村 祐一（日本電気株式会社）、加藤 次雄（株式会社富士通研究所）、
宮下 裕章（三菱電機株式会社）、石田 明（パナソニック株式会社）、
神田 充（株式会社東芝）

(3) 総務省（国際戦略局）

二宮官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、松井技術政策課長、
森下宇宙通信政策課長、高村研究推進室長、松本通信規格課企画官

(4) 事務局（国際戦略局 技術政策課）

山野企画官、中川統括補、加藤課長補佐

4. 配付資料

資料3-1 技術戦略委員会（第24回）について

資料3-2 共創イノベーションWGの検討状況

資料3-3 重点研究開発分野の検討状況

参考資料3-1 重点領域WG（第2回）議事概要

参考資料3-2 これまでいただいた意見・コメント

参考資料3-3 工程表案

参考資料3-4 中間答申報告書 案

参考資料3-5 スケジュール

6. 議事概要

3. の議題について検討を行った。議事概要は以下のとおり。

(1) 技術戦略委員会について

事務局より資料3-1に基づき説明がなされた。

(2) 共創イノベーションWGの検討状況について

事務局より資料3-2に基づき説明がなされた。

(3) 重点領域WG取りまとめ（案）について

事務局より資料の3-3に基づき説明がなされた後、意見交換が行われた。主なやりとりは以下のとおり。

○各分野で主要な重点研究開発課題が書いてあるが、できればそれぞれ、何のために、何を

解決するためにこれをやるのか等の課題を書いた方が分かりやすい。

- Beyond 5 Gの姿で、通信速度が10倍と書いてあるが、速度で書くか容量と書くかは検討していただきたい。また、どこでも接続出来るようにならないといけないという話がより強調されてもいいと思う。
- テストベッドでは、標準化を支えてくれる組織がないと、企業の方針が変わって標準化活動が続けられなくなるという現状がある。記載されている標準化の参照モデルの構築、さらにはコミュニティの底上げという観点が重要である。また、産業界や学会も絡めたエコシステムの構築もやっていただきたい。
- 未来コミュニケーション技術など、こういう技術が完成すると、社会的にどういうベネフィットがあるかというのが、もう少し明示的に書かれていてもよい。
- AI×5G×量子情報のように、それぞれ尖った技術があり、それらを組み合わせると新たなアプリケーション等ができる可能性があると思うが、そのような領域や分野の組み合わせという視点や、各プレイヤーの相互理解が進むような仕組みづくりの視点があってもよい。
- 技術開発だけでなく、技術開発を実現するための法整備や規制の緩和とのリンクもあつた上で技術開発を盛り立てるという視点もあるとよい。
- 人材の話では、技術系エンジニアの収入格差が問題になっている。難しい技術開発を行うための研究者や技術者の立場がどうあるべきかということも検討して欲しい。
- Beyond 5 Gが1つの大きな基軸になると思うが、例えば5年後、10年後を考えると繋がるモノが変わっている可能性がある。今のIoT機器ではないものまで繋がる事が起こる場合に、どのようなことを検討しなければならないかも考える必要がある。
- 時代の変化によって価値も短時間で変わっていくと思うので、そういった状況も踏まえて柔軟に今後の方向性、評価の仕方を変えていかなければならない。

(以上)